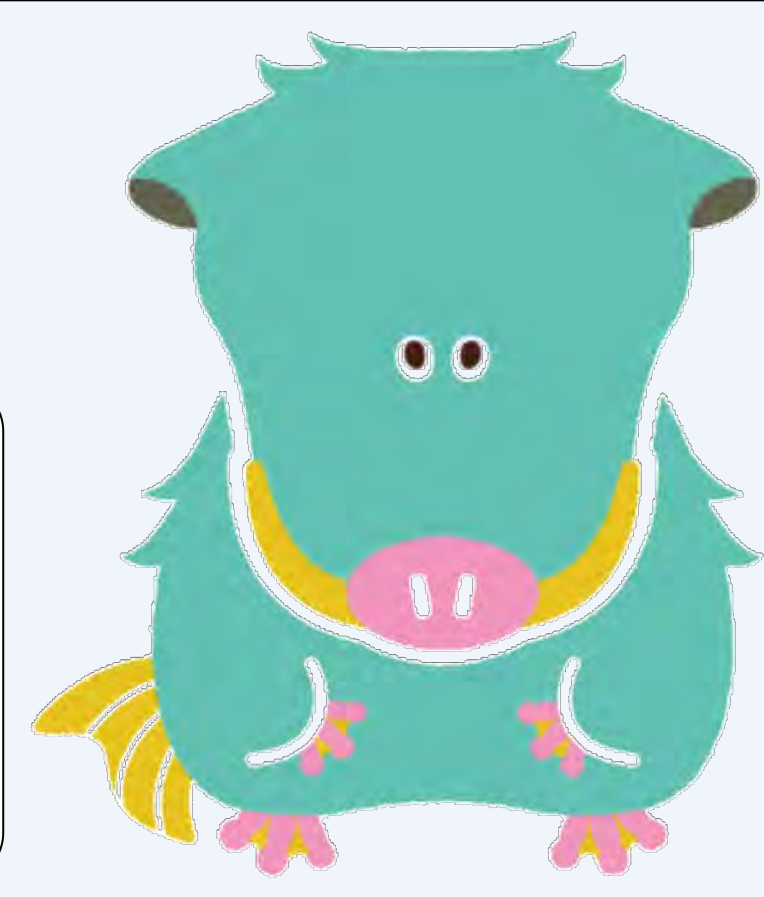


矢作川流域圏懇談会の設立 14年の活動。そして、これから

矢作川流域のゆるキャラ
『はぎぼう』



はぎぼうは、カエルの手とアユの口、ヒレをもつツノシの子(うりぼう)。矢作川流域にすむ陸生、両生、水生の生き物を組み合わせ、流域の自然の豊かさを表しています。背中のはきは「川」の字。ふだんはぼーっとしているけど、矢作川のこととなると鼻息をフンフンさせながら熱く語る矢作川オタクです。

矢作川流域圏懇談会（以下、懇談会）は、懇談会員が市民・山・川・海の4部会に分かれて活動を行っている。それぞれの部会では右記に示すテーマを掲げ、流域が抱える課題に対し、意見交換や現地見学を実施している。

また、懇談会が設立されてから10年の2020年に「矢作川流域圏懇談会10年誌」（以下、10年誌）を作成した。10年誌では、懇談会の設立経緯、これまでの活動実績、これからの懇談会、そして懇談会に所属する方々の思いが綴られている。

今回の展示では、10年誌をもとに懇談会の設立から現在、今後について紹介する。

●現在の各部会のテーマ

市民部会

- ①流域全体に関する課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。
- ②地域部会（山・川・海）合同のバスツアーを企画・開催する。
- ③農業従事者や大学関係など、新たなつながりを広げる。

山部会

- ①流域圏担い手づくり事例集
- ②山村ミーティング
- ③森づくりガイドライン
- ④木づかいガイドライン

川部会

- ①河道に関する課題（本川・支川）
- ②流域に関する課題
- ③交流・共有に関する課題

海部会

- ①豊かな海の再生に向けた取り組み
- ②海と人との絆再生
- ③ごみの問題
- ④土砂の問題

～矢作川流域圏懇談会の設立～

「矢作川水系河川整備計画（2009年策定）」の中で治水、利水、環境、総合土砂管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働による取り組みが必要であることが明記された。それを受けて、国土交通省豊橋河川事務所は、流域住民・関係機関も含めた話し合いを通じて連携・協働の取り組みを行うことで、流域全体の発展につなげることを目指す「矢作川流域圏懇談会（2010年）」を設立した。設立総会には、3省1庁3県13市2村、学識者11名、民間14、市民団体30など全体で143名が参加した。令和6年1月時点では、383名が登録し活動している。

●河川整備計画（河川法第16条の2）

河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画を定めておかなければならない。

河川整備基本方針に基づき20～30年後の河川の整備目標と整備内容を決めます。

●矢作川流域圏懇談会設立のきっかけとなった「矢作川水系河川整備計画」（2009年策定）

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に属する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関する情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

- (1) 市民部会の活動の活性化
 - 組織のあり方を見直し、市民部会主体のイベント、勉強会の計画を行う。
- (2) 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流
 - 流域の課題解決に向けた具体的な行動を積極的に行う。
 - 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。
- (3) 河川整備計画のフォローアップ
 - 河川整備に関する情報共有・意見交換の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

●矢作川流域圏懇談会の目的と運営方針

●矢作川流域圏懇談会設立当初の組織図

●現在の矢作川流域圏懇談会組織図

●部会連携調整会議（ミライ会議）
コロナ禍のような非常事態でも、少人数による会議を継続的に開催し、今後の懇談会の活動を停滞させないようにする目的で発足した会議

懇談会14年の活動

設立と第1期 (2010～2012年度)

設立当初、地域部会での課題検討の議論は勉強会という位置づけであり、主要なメンバーは山・川・海関係なく議論を行っていた。しかし、室内の会議ばかりであったため懇談会を去る人もおり、懇談会が成り立たない事態に陥った。そのため、2011年に山部会提案で問題点を共有するために「矢作川の全て」バスツアーが実施され、懇談会に活気が戻った。これ以降、各部会において現場で課題共有する流れができ、活性化につながった。

●源流から海まで、2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー

各部会WG設立と第2期 (2013～2015年度)

2012年度より地域部会が山・川・海の部会ごとに個別議論(WG)する、分業体制となった。これにより議論がより深まっていったが、一方で山から海までの連携、課題共有意識が薄まってしまふこととなった。そんな中、2014年の「西の浜エクスカージョン」において山・川・海がそれぞれの部会について発信を行った。また、2015年には、山・海合同部会が宿泊とフィールドワークという山部会方式で開催された。これ以降、他部会との情報共有・意見交換の場として、合同部会（バスツアー）が開催されるようになった。

●西の浜エクスカージョン

●山・海合同部会 トンボロ干潟の様子

第3期 (2016～2018年度)

2016年度よりの懇談会では、部会間のつながりだけでなく外部への発信と連携も行うようになった。2016年に「奥矢作森林フェスティバル」へ山・海が参加し、懇談会としてのブースが設置された。2017年には「矢作川感謝祭」に山が参加し、2018年には山・川・海がそろう連携イベントとなった。さらに2018年には「三河湾大感謝祭」にも参加し、以降は両イベントに継続して参加している。イベントでは、アンケートや矢作川に関するクイズ提供するなど、来訪者に矢作川流域の情報や意見を共有・収集している。

●奥矢作森林フェスティバル（左上）、矢作川感謝祭（右）、三河湾大感謝祭（左下）

2019～2023年度とこれから

新型コロナウイルスの影響（2020年～）により、懇談会の活動が制限された。そこで、市民・海部会主導で懇談会外部に向けたオンライン公開講座を開催した。これまでに、海のマイクロプラスチック、ネオニコチノイド系農薬、海の栄養塩不足について取り上げた。今年度は「川がつなぐ、私たちの未来」と題し、流域思考を全国に広めた。

これからは、「都市の人を巻き込む」と同時に「他流域（多摩川流域懇談会、桂川・相模川流域協議会など）との連携」を図り、各部会が抱えている課題について共有・情報交換していきたいと考えている。また、若い世代への情報発信として大学生に流域の現状・課題を「自分事」として捉えてもらうため、世代を越えた交流を進めていく。

●公開講座の開催
山・川・海をつなぐを懇談会外に広める

YouTubeにて公開中！！

- マイクロプラスチックに関する話題
- 海の栄養塩不足に関する話題